



INFORMATION

《速報》

■佐倉市井野城跡住居跡出土の金銅鈴



魚々子の拡大 (100倍)

佐倉市の井野城跡では、平安時代の竪穴住居跡から直径2.7cmの金銅製の鈴が出土しました。この鈴を詳細に観察したところ、鍍金された後に魚々子(ななこ)と呼ばれる魚の鱗のような細かい輪や曲線が緻密に施されていることが判明しました。このような文様がみられる鈴の出土例は少なく、当時の技術の高さがうかがえる貴重な資料といえるでしょう。

《ご案内》



お知らせ!

■企画展「ウチの土器・ヨソの土器 -古代印旛の須恵器と流通-」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成18年1月16日(月)から6月30日(金)まで企画展を開催しています。

畿内からもたらされた珍しいものとともに、印旛周辺の地域(ヨソ)からやってきた奈良・平安時代の須恵器に注目し、印旛地域(ウチ)の須恵器と比べてみることにしました。印旛地域はもちろん周辺の窯跡から出土した遺物も展示しています。ぜひご来場下さい。土日祝祭日休館。入場無料。

《発掘中の遺跡》

3月予定

がんばってます!

<佐倉市>

白井屋敷跡遺跡(中世)

本佐倉城跡(中世)

<印旛村>

天神遺跡(縄文時代~奈良・平安時代)

細町遺跡(古墳時代~奈良・平安時代)

《室内作業》

こっちも やってます!

<本部統合事務所>

佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133

台方下平I遺跡(成田市 弥生時代~平安時代)

大竹林畑遺跡(成田市 古墳時代)

馬場No.1遺跡(四街道市 弥生時代中期~奈良・平安時代)

用草庵塚遺跡-第3地点-(八街市 縄文時代中期)

<佐倉南統合調査室>

佐倉市岩富町538-1 TEL. 043-498-0765

宮内井戸作遺跡(佐倉市 縄文時代後・晩期)

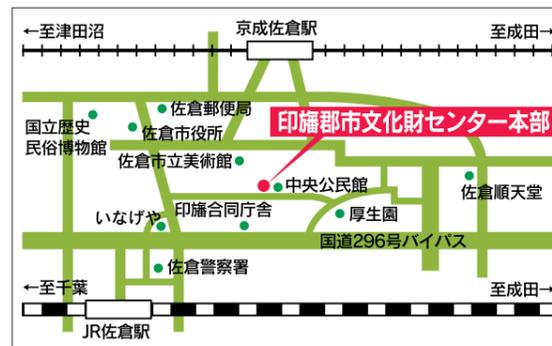
内田端山越遺跡(佐倉市 古墳時代後期~奈良・平安時代)

西御門明神台遺跡(佐倉市 縄文時代晩期・奈良・平安時代)

西御門新堤遺跡(佐倉市 縄文時代早期・古墳時代中期)

《お知らせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 ☎ 043(484)0126(代) 043(485)9871
 平成18年3月15日 http://www.inba.or.jp(ホームページ) http://www.inba.or.jp(ii)



いんざいしどうさくこぶんぐん 印西市道作古墳群



【写真1】直刀出土状況

道作古墳群は印西市小林字馬場2824-5他に位置し、成田線小林駅から西方に1.5kmほど離れた桜の名所として知られる小林牧場の近くにありす。

道作古墳群は最も規模の大きい1号墳と呼ばれる墳長46mの前方後円墳を含め、円墳13基・前方後円墳7基からなります。築造された年代は、1号墳の周溝から出土した埴輪の形態から6世紀後半(古墳時代後期)と考えられています。

今回の調査は道路拡幅および新設道路の建設に先立ちおこなわれ、1号墳の脇も調査の対象となりました。印西市教育委員会による1号墳周溝の確認調査によると、現道下に周溝が認められるようです。

調査区は全長約600mにおよび、その中央やや東よりの円墳の近くの土坑から長さ98cmの直刀が一振出土しました。直刀は錆に覆われていましたが、鞘であったと思われる木質の部分が比較的良好に残っています。直刀の長さは時代を決める手掛りにもなり、1mクラスのものだと6世紀後半から7世紀前半といわれています。つまり、1号墳とほぼ同じ年代ということが分かります。また、こうした遺物は通常副葬品と考えられますが、調査では墳丘や周溝は認められませんでした。出土した遺物や検出された場所を考慮すると、古墳の埋葬施設であった可能性があります。はたして古墳は存在していたのでしょうか。そして、被葬者は誰だったのでしょうか。謎を呼ぶ直刀の紹介でした。



【写真2】直刀



【写真3】X線写真



わかった!

よつ かい どう し ば ば い せ き 四街道市馬場No.1 遺跡

馬場No.1 遺跡は鹿島川の西岸、標高約30mの台地上にあり、JR物井駅から北へ400m程に位置しています。発掘調査では弥生時代方形周溝墓8基、古墳時代後期住居跡1軒、奈良・平安時代住居跡25軒、古代の道路状遺構などを検出しました。

弥生時代の方形周溝墓のうち3基からは埋葬施設が検出されましたが、副葬品は見つかりませんでした。方形周溝墓は主軸方位や規模から、いくつかのグループに分けられるようです。その背景には時期や構成集団の違いがあると考えられます。この時期の集落は遺跡内には発

見されませんでした。墓域に臨む場所に存在する可能性が高いと思われます。

奈良・平安時代の出土遺物には土師器、須恵器などの土器類や鎌、紡錘車など生業に使用した鉄製品があります。土器類には、遠く北武蔵（埼玉県）を産地とするものや僧侶が携えていた鉄鉢形土器も出土しており、地域間の交流や信仰の実態をうかがうことができます。

次に注目される遺構について述べます。1つめは11号住居跡で検出されたカマドです。当地域では砂質粘土を突き固めて作りますが、ここでは砂質粘土をわざわざ赤

褐色になるまで堅く焼き締めていました。構築方法の違いは、他地域の影響を受けている可能性も考えられます。

2つめは古代の道路状遺構の検出で、遺跡の中を南北及び東西方向に走っています。堆積土中には複数の硬化面があるほか、何回も掘り直された痕跡が認められました。また、底面の両脇には古代の官道にみられるような側溝が確認できるものもありました。そのため単なる集落内の道路ではなく、主要な集落を結ぶ比較的大きな道路であったと考えられます。

遺跡周辺は古代の千葉郡物部郷の比定地とされ、物井という字名がその名残を現在に伝えています。近年大規模な住宅地へと様変わりしていますが、この場所にいにしえの人々が生活していた事実を忘れないでいたいものです。

